

あらわ

礼文の祖白頭るる桜草 爽風

夏を迎えようとしている北の礼文島では、長い冬の寒さにじっと耐えてきた草花が、今、待ちかねた様に島を彩り始める。

19年度支部総会 平成19年5月15日 於KKRホテル仙台

ピッタリ定刻に始まった総会は、例年の如く議案が全てスムーズに承認されました。懇親会は、筑前琵琶の演奏という雅やかなオープニングで、吾が支部総会も愈々その文化度を高めてきた（かな？）感があります。支部独自の傘寿祝いを浅野さんと森さんが受けられて、代表の浅野さんから80歳の感想を聞かせていただきました。よおし、あとに続けえ！そのあと、嬉しいかな、鈴木久教さんから新入会員としての挨拶がありました。

ごあいさつ

支部長 川口直樹

昨年は30周年記念の総会でしたが、今年からまた例年通りKKR会館に復帰しての総会になります。今年も皆さん良くお集まり下さいました。

参加したくても体の調子が良くなり出席できない方も多数いらっしゃると思います。本日は東北支部73名のうち33名がご出席いただいております。

さて、年金支給の年齢が遅くなったことに伴い、会社の定年も65歳まで延長され、このところ会員の加入が激減しております。従って、鈴木久教君の参加は久しく待望した新人の出現といった感があります。

もう4~5年もすればかなりのメンバーが加入すると予測出来ますが、それまでは現有勢力で維持していかなくてはなりません。

ところで会社を取り巻く損保業界の環境も激変しております。後ほど懇親会の席で松本本部長から話があるかもしれませんが、我々OBも幾分は心に留めておく必要があります。

保険金不払いや保険料の取りすぎといった損保にとって全く不名誉な記事が新聞を

賑わせ、その結果、営業停止といった厳しい行政処置が課され、今や業界はあげて正常化に邁進しております。

特に、代理店との関係では会社側にその教育指導に大きな問題があったとされ、かって我々が営業現場で苦労した社員代行や収明不備、料率誤りなどはもう決して認めない、厳重に指導する、出来なければ代理店として存続させないという姿勢に変わろうとしています。

今度新しく導入される契約内容確認書は、契約にあたって申込書だけでなく確認書という形で内容の正確性を期すというところまで代理店に要求しています。

いずれアメリカのように契約募集は代理店の仕事、会社は事故処理と保険料の資産運用に分化していくことになるでしょう。

我々は黎明期の損保事業に携わったと後世人に言われることになるかもしれませんが、そんな状況にある後輩たちを温かく見つめつつ、健康に留意されて何時までもみつわ会に参加されますようお願いいたします。



歳をとって顔
が分らなくな
ってきたので
名前入りで。

- (義)阿部
- (敬)佐々木
- 佐藤武
- 菅井
- 大矢
- (久)鈴木
- (秀)鈴木
- 小林
- (勝)佐々木
- 鳴原
- (音)小池
- (勝)星
- (友)佐藤
- (義)佐藤
- 山家
- 佐藤
- 加藤
- 徳江
- (尚)佐藤
- 清和
- 細川
- 渡辺
- 柿沼
- 小池
- 浅野
- 丹治
- 大久保
- 若生
- 富樫
- 宮本
- 川口
- 千葉

敬称略



這って出席した方も



初めて出席した方も



そろそろ始めっぞう

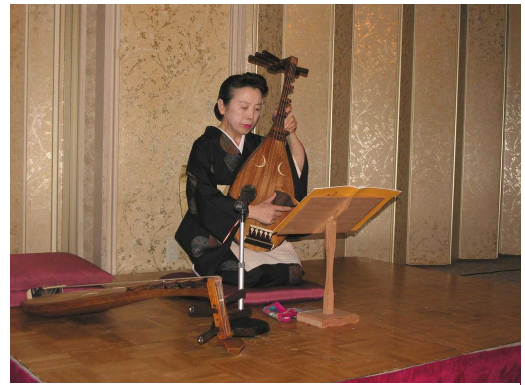
終わったぞう。閉会の辞は清和さん
前と後の揮ごうは佐々木(勝)さん





「え～、筑前琵琶が大陸から・・・
 ・・・でありまして・・・なのです。」
 琵琶の解説は千葉繁明さん

雪霜に～
 ～～
 「大楠公」



オープニングファンファーレは、
 高橋旭盛さんによる筑前琵琶の演奏

懇親会には、会社側から松本本部長 小林中東北統括営業部長 玉井東北損害サービス部長
 杉田東北事業本部室長の4方にご参加いただきました。ありがとうございます。

乾杯の音頭は、どこも弱って
 ない佐藤尚義さん



「八十まで生きると思っ
 ていなかったが・・・」
 支部の長寿祝いで浅野さん



鈴木久教さんの入会挨拶。
 新人が一人だけは淋しいです
 が身長でカバーしています。



来年の総会でもお元気でお会いませう。



6月の行事

日付	支 部	みちのく損保
6月8日(金)		総会 仙台ホテル 5時
12日(火)		ゴルフ 西仙台
13日(水)	幹事会 二水会 4時～	
21日(木)	昼食会 「しゃぶ禅」 12時～	
22日(金)	ゴルフ	
25日(月)		つり大会 大型漁礁

出欠のご返事を6月18日(月)までに木村さんまでお願いします。 227-2131

2007年度みつわ会会員からの便り（敬称略）

2007年5月15日

体調が引き続き良くないものですから、今回も出席を見送らせて下さい。

会員皆様の益々のご清栄を祈念いたします。

仙台市青葉区 阿部 宏

お世話になって居ります。5/15 予定が有りますので欠席いたします。

名取市名取が丘 青木秀子

会津若松支社社員、代理店各位との懇親会、定例会への出席、家の畑の手入れ、庭の手入れ、一日置きウォーキング等日々結構忙しい毎日です。今回は丁度用事と重なり欠席です。

皆様に宜しく伝えて下さい。

会津若松市 五十嵐紀生



滝桜（福島県）

最近、健康保持に努めています。ストレッチ体操は今迄続けて来ましたが、最近ウォーキングをはじめました。

NHKの文化講座で「里山歩き」など参加して楽しんでいます。

八戸市 駒津省吾



水芭蕉

体調整わず今回も欠席いたします。ご盛會を祈ります。

仙台市太白区 葛西洋一

会員の皆様には数年お会い出来ず非常に残念に思っています。現在週一回の点滴をしながら通院しておりますので今年も又欠席させていただきます。

皆様に宜しくご風声の程。

潟上市 京谷正良

皆さんによろしくお伝え下さい。

仙台市青葉区 清海幸夫

体調が優れず、疲れがひどい為欠席いたします。薬（通院）で何とか過ごして居ります。

皆様によろしく。

仙台市太白区 児玉則雄

目下リハビリ中で、回復に向かっていますが体調が万全でないため、残念ながら今回も欠席させていただきます。

みつわ会東北支部の益々のご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

仙台市青葉区 齊藤久五郎

ご案内いただき有難うございました。今回は欠席となります。

郡山市 鹿野倫司

お世話様です。不参加が多く申し訳なし。睡眠障害も多少良くなりつつある様に思えて来ました

仙台市青葉区 杉村 優

平々凡々げんきです。調査事務所にて脳は若返りました。

秋田市 白幡良文

体調不良の為欠席します。

東京都文京区 鈴木幹彦



大山桜（山形県西蔵王）

会員皆様の御活躍により総会を迎えられました事は唯々感謝あるのみです。会員皆様にお会いするのを楽しみに懸命に頑張っておりましたが「意あれど体動かず」今一步ということで断念致しました、極めて残念です。

会の盛会を祈りますと共に皆様のご健勝を祈ります。

仙台市太白区 白井 力

介護施設に入居中の家内が再度病院に入院、余り思わしくないとの医師の言もあり、欠席致します。

鶴岡市 高橋末吉

我が損保業界も大変肩身の狭い状態が長期に亘り尾を引いて居ります、小生心臓が丈夫ですので余り心配して居りませんが、” 災い転じて福となす”とも云われ、又、” 禍福は糾^{あざな}える縄の如し”とも。未だ安心して引退出来ません。

山形市 高橋靖夫

「便り」を毎回たのしみにしています。

山形市 丹野秀夫

津軽にもやっと春がきました。孫のこいのぼりや五月人形をかざり、成長をたのしみしております。検診で色々見つきり治療中です、運転は70才迄と決めただけどどうなるやら・・・皆様によろしくお伝え下さい。

青森市 千葉三千代

当日先約があり欠席させていただきます。元気にみちのく損保の行事に参加して居ります。

仙台市泉区 長井輝夫

何時も案内状を頂きまして有難うございます、私も86歳になりました。時々会社で働いている事を思い出します。会社の方々からよろしくして頂き本当に有難うございました。

皆様方の健康と会社の発展をお祈り申し上げます。

仙台市青葉区 梨本みやこ



座
禅
草

当日は術後の検査日と重なりまことに申し訳ありませんが欠席させていただきます。

今後ともよろしく願いいたします。

塩竈市 西村昌男

体調が充分でないため欠席させていただきます。皆様のご健勝をお祈りいたします。

仙台市青葉区 平田喜之

28日毎の通院にて何とか生きています。

仙台市青葉区 福島喜代子

いつも大変お世話になり深謝申し上げます。昨年7月より前立腺がんを併発し、心臓病と共に鏡意加療中ですので、残念ながら欠席させていただきます。

仙台市青葉区 橋本謙忠

ここ数年会社の退職年齢の変更により、みつわ会への新規加入者が殆ど無く、会員の平均年齢が年々高くなり、そのせいでもないでしょうが体調不良の方々が多くなってきました。折角、退職後楽しむ時間が出来たわけですから、元気を出して病気を吹き飛ばし、次回総会でお会いしましょう。



文横露地口

千葉繁明

知人に、自宅に茶室を作ってしまうほど、茶道を遊び心^{ひと}にしている感性の素敵な女性がいる。

私は、茶の心得は無いが、わび寂びの心は好きであり、茶室で絵や道具の話を書くのはとても楽しい。

ある日、茶室に招かれ、茶を服しながら、色々と茶道の話^{ひと}を聞かせてもらった。

茶道には「結界」という、主人と客人との絆を築くとても大事な心得があるという話を聞き、とても関心があった。

客人が招かれて茶室に到るまで、途中垣根の間や庭の中を通して来るわけだが、その過程にあるのが結界なのだそうである。

茶の湯の空間は、露地と茶室が一体となって構成されており、露地口から茶室に到るまでにはいくつかの結界を越え、自我を捨て、身を清め、無の境地へと入って行き、そうして、主人と客人は一服の茶を服して、その絆を築くのだそうである。

禅でいう、越えてはならない境界、「結界」は我々の日常の中に気がつかないだけで結構あるらしい。

言われて見ると、私も長年の間に、様々な結界を何気なく通り過ぎてきた様な気がするのである。

仙台に文化横丁という古い町並みがある。

仙台では唯一昔からの懐かしい店が残っているところであり、その横丁の狭い露地を入った奥に、私の好きな店がある。

初めてその店の暖簾をくぐったのは昭和36年であるから、随分と長い間この露地道を通ったことになる。

朧月夜の春の宵、花火の音を聞きながらの夏の宵、満月の秋の宵、小雪の舞う寒い

冬の宵と、数知れないほどの季節を味わいながら、この露地を通ったことになる。

露地に入って、この店にたどりつくまでのわずかな道のり、過程は、茶の湯でいう「結界」といえるのではないだろうか。

露地口に入る時は何時も、何ともいえない昂ぶりを感じ、露地を進んでいくうちに、徐々に気持ちを落ち着かせ、暖簾をくぐったものである。

仄暗く、落ち着いた佇まいの店の中は、すみずみまで掃除が行き届き、片隅には、いつもさりげなく静かに花が活けてある。

カウンターに座り、心をこめて造った一品の料理と、独り静かに飲む一杯の酒、主人と客との静かな会話。

このひとときの為にどれ程の人達が、文横露地口の結界を越えて、この店の暖簾をくぐってきたことだろう。

その店の名は、短歌を詠み、筑前琵琶を奏する、高橋旭盛さんの店である「源氏」という。

筑前琵琶

今から約1200年前、天台宗開祖最澄大師が比叡山根本中堂を造営するに当たり、盲目の玄清法印に山中の毒蛇退治を依頼した。法印は琵琶を奏し、経を誦して蛇を退散させ、最澄はその功績を讃えて成就院の称号を与えた。法印が伝えたという「玄清流盲僧琵琶法樂」は筑前琵琶の源流で、昭和39年福岡県無形文化財の指定を受けている。成就院では毎年10月17日に「玄清法印会」が営まれている。

— 附 録 —

琵琶が日本に渡来したのは八世紀頃であった。渡来した琵琶は二種類で、一つは雅楽に用いる楽琵琶、一つは後に盲人たちが使用した荒神琵琶であったと言う。

楽琵琶には昔は独奏曲もあったが、曲の伝承が絶えると共に、雅楽における管絃合奏の楽器としてのみの用途になった。また、荒神琵琶の方は筑前盲僧琵琶と薩摩盲僧琵琶とに分かれた。

筑前盲僧は四絃五柱、薩摩盲僧のは三絃六柱の琵琶であった。そして、中世末期から江戸時代の初期にかけての頃、薩摩盲僧琵琶から筑前琵琶が誕生し、明治中期になって筑前盲僧琵琶から筑前琵琶が生まれた。また、明治の末から東京において、永田錦心による錦心流琵琶が薩摩琵琶の中から派生した。さらに錦心流から出た水藤錦穰は錦琵琶という五絃琵琶を工夫して別派を開いた。結局、薩摩琵琶は現在三派に分かれて活動している。

中世末期の戦国時代において、薩摩の島津忠良が子弟の士気を鼓舞する目的で、琵琶歌を作り世に広めたのが薩摩琵琶の起源だと伝えられ、かつ初期の頃は武家の家庭にのみ行われたというだけあって、剛健な曲風というものが根底にある。

筑前琵琶は、明治二十年代の中頃、博多の盲僧琵琶の流れを汲む橘智定（初世橘旭翁）・鶴崎賢定・吉田竹子らが作り上げた琵琶楽で、それぞれ三つの流派に分かれたが、全国的に広がったのは橘流であった。筑前琵琶の特色は三味線の旋律を取り入れて、華麗に歌う点にあると言える。